

式 辞

日一日とやわらいでくる寒さに春の気配を感じるこの佳き日に、北海道東川高等学校保護者と教師の会会長、高橋ひろみ様、北海道東川高等学校同総会会長、能沢勇人（はやひと）様、保護者の皆様のご臨席を賜り、第68回北海道東川高等学校卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより、教職員一同にとりましても、大きな喜びであります。ご臨席を賜りましたご来賓の皆様には、日頃より本校に深いご理解と温かいご支援をいただき、さらに本日は、卒業生の門出に当たって激励をいただきますことに、心よりお礼申し上げます。

本日の卒業式は、現在道内でも発生が続いている新型コロナウイルスの影響から、規模を縮小し、時間も短く実施しております。生徒他関係者の健康を守るために、断腸の思いでこのような形での実施を決定した次第です。78名の卒業生の皆さんには、卒業の重みが変わるわけではありません。自分の軌跡に誇りを持って卒業して欲しいと思っています。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。皆様には、時にはお子様が悩む様子を見、時には大きく成長した姿を感じ、心配や喜びの連続だったのではないかとご拝察申し上げます。本日ここに、立派に成長し高校を卒業していくお子様の姿に、感慨もひとしおと存じます。心よりお慶び申し上げますとともに、これまで本校にお寄せいただきましたご支援とご協力に深く感謝申し上げます。

さて、ただ今卒業証書を授与されました卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。本校所定の教育課程を修了し、本日晴れて卒業の日を迎えたのは、これまでの皆さんの努力の積み重ねの結果であります。今皆さんが手にした「卒業証書」の中には、この三年間の努力の積み重ね、長い軌跡が隠されています。

場面場面においては、一言では言い表すことのできない様々な苦労があったでしょう。うまくいったこと以上に失敗や悔しい思いの方が多いかも知れません。しかし、そういった成功や失敗の体験はすべて皆さんの貴重な財産です。本校で身に付けた努力する姿勢をこれからも忘れず生きて欲しい。その長く大きな努力に心から賛辞を送り、敬意を表します。

卒業生の皆さんに、これから忘れずにいて欲しいことを2つ話します。

一つ目です。皆さんは、この東川高校で福祉について多くを学び、資格も身につけました。この学びは、一見、その方面に進路を向けた生徒以外あまり関係がないように思えます。しかし、福祉の心は、医療関係や教育・保育関係、そして皆さん全員がこれから関わるであろう地域社会においては必ずや役立つものです。本校の美風慣行という校訓にも通じる、他を思いやり対応するこの福祉マインドを、皆さんの大切な力として、さらに大きく育ててください。

二つ目です。この東川には、写真や国内外の多様な人々との交流に代表される文化、水や旭岳に代表される自然、農業や木材・家具に代表される産業があります。そして何よりこの東川高校の生徒を、東川で学んでいる宝、という発想で、とても温かく支援してくれる心があります。皆さんがこれまで歩んできた道のりには、この東川という地域の、多くの方々からの大きな支援があったことも忘れないで欲しい。この東川高校の学び舎を巣立った後には、広い視野を持ちながらも自分を育ててくれた地域を忘れず、愛する気持ちを忘れないでほしい。東川高校・東川町ってどんなところなのか、想いをもって説明できる人間になって欲しい。それが、地域に貢献しようという気持ち、そして社会に対する貢献につながり、ひいてはみなさん自身の未来や日本の未来につながると考えています。

だからこそ、THINK GLOBALLY, ACT LOCALLY. の精神、今ではGlocalという造語もできていますが、皆さんには、視野は世界的にもち、行動を地域で起こす、この THINK GLOBALLY, ACT LOCALLY. の気概を持ち、思考力、社会力や愛郷心、表現力を磨いて欲しいと考えています。

みなさんの前途に心からエールを送ります。

本日ご臨席を賜りました皆様のご多幸と、卒業生一人ひとりが、これから過ごしていく社会でさらに大きく飛躍し、限らない未来を切り拓いていくことを心から祈念し、式辞といたします。

令和二年三月一日

北海道東川高等学校長 元 村 治 郎